

2024年度(令和6年度) 桃山学院大学 ビジネスデザイン学部 自己点検・評価資料

【実施：桃山学院大学ビジネスデザイン学部自己点検・評価委員会】

1. 全体総括

2024年度の対象17科目について、履修者数は延べ3,148名、合格者数は延べ2,649名であり、全体の合格率は84.1%であった。全体としては、ビジネス系科目、実践型科目、PBL関連科目を中心に、一定の修得状況が確認できる。特に、プロジェクトマネジメント、ITリテラシー、ビジネスリーダーシップ、ITビジネス、ビジネスモデル等は合格率が高く、授業アンケートにおいても学修目標の理解や学習環境に関する評価が比較的高い。

一方で、統計・データ分析、テクノロジーとイノベーション、アプリ開発、プログラム開発等では、合格率または学生の学修成果実感に課題が見られる。特に、統計・データ分析は合格率が61.8%と対象科目の中で最も低く、数理・分析系科目における基礎的理解の支援、授業外学修の促進、フィードバック機会の確保が今後の確認課題となる。

また、授業アンケートでは、学修目標の理解や学習環境整備については全体として比較的良好である一方、授業外学修時間に関する設問は全般的に低めであった。したがって、学生が授業内容を定着させるためには、授業内での説明に加え、復習課題や小課題、質問対応、LA等による支援など、授業外学修につながる導線を各科目の特性に応じて検討する必要がある。

2. 履修・修得状況から見える結論

合格率が高い科目は以下のとおりである。

| 科目名 | 履修者数 | 合格者数 | 合格率 |
|--------------|------|------|-------|
| プロジェクトマネジメント | 194 | 185 | 95.4% |
| ITリテラシー | 215 | 204 | 94.9% |
| ビジネスリーダーシップ | 220 | 204 | 92.7% |
| デザインシンキング | 208 | 190 | 91.3% |
| ITビジネス | 218 | 199 | 91.3% |
| ビジネスモデル | 182 | 164 | 90.1% |

一方、合格率が相対的に低い科目は以下のとおりである。

| 科目名 | 履修者数 | 合格者数 | 合格率 |
|----------------|------|------|-------|
| 統計・データ分析 | 191 | 118 | 61.8% |
| テクノロジーとイノベーション | 198 | 129 | 65.2% |
| アプリ開発 | 82 | 61 | 74.4% |
| プログラム開発 | 24 | 18 | 75.0% |
| ロジカルシンキング | 184 | 141 | 76.6% |
| フィールドワーク | 198 | 156 | 78.8% |

上記の結果から、2024年度時点では、ビジネス系・実践系科目では比較的安定した修得状況が見られる一方、数理・分析系科目および一部の技術系科目において、学生が内容の理解や定着に苦勞している可能性がある。ただし、科目の難易度や評価方法、履修者層の違いによって合格率は左右されるため、単純に科目の良否を示すものではない。自己点検上は、支援を必要とする学生がどの段階でつまづいているかを把握し、授業運営上の工夫につなげる観点で扱うことが適切である。

3. 授業アンケート結果から見える結論

授業アンケートでは、設問2「学修目標の理解」、設問18「学習環境の整備」は多くの科目で比較的高く、授業の目的や運営面については、おおむね良好に受け止められている。一方で、設問4「授業外学修時間」は全体的に低めであり、授業時間外の学修量をどのように確保するかが課題として確認できる。

また、設問7～11に対応する学部の学修目標、すなわち価値創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、感性・美意識等の教養、粘り強くやり抜く力については、実践型科目やビジネス系科目で比較的高く、分析・技術系科目では相対的に低くなる傾向が見られた。これは、分析・技術系科目が学部の学修目標と無関係であることを意味するものではなく、学生が学修内容と実践的な学びとのつながりを実感しにくい可能性を示すものとして捉えるべきである。

評価平均が相対的に低い科目は以下のとおりである。

| 科目名 | 回答者数 | 評価平均 | 特徴的に低い項目 | 点検上の見方 |
|----------------|------|------|-----------------------------------|--------------------------|
| 仕事で使う数学 | 33 | 63.8 | 設問8・9・13・15が低め。数理系科目の支援課題を示唆。 | 回答者数・科目特性を踏まえ、傾向として確認する。 |
| 統計・データ分析 | 2 | 65.4 | 設問8・9・10・13が低め。ただし回答者数が2名のため参考扱い。 | 回答者数・科目特性を踏まえ、傾向として確認する。 |
| プロジェクトマネジメント | 84 | 71.2 | 設問8・9・10・15・17が相対的に低め。 | 回答者数・科目特性を踏まえ、傾向として確認する。 |
| アプリ開発 | 34 | 71.8 | 設問7・8・9・11・14・17が低め。 | 回答者数・科目特性を踏まえ、傾向として確認する。 |
| テクノロジーとイノベーション | 109 | 78.4 | 設問8・9が低め、授業外学修も低め。 | 回答者数・科目特性を踏まえ、傾向として確認する。 |
| デザインシンキング | 129 | 78.9 | 全体は中位だが、他の実践系科目と比べると一部項目が低め。 | 回答者数・科目特性を踏まえ、傾向として確認する。 |

4. 設問別の評価・結論

設問2：学修目標の理解

多くの科目で80点台以上となっており、シラバスや教員説明を通じた授業目的の共有は概ねできている。一方で、学修目標を理解していても修得状況が低い科目があるため、目標理解と到達支援は分けて確認する必要がある。

設問3：出席率

全体として高めであり、授業への参加状況は概ね良好である。したがって、修得上の課題は単なる欠席だけでなく、授業内容の難易度、授業外学修、復習機会、フィードバック等と関連している可能性がある。

設問4：授業外学修時間

全体的に低めであり、2024年度の大きな課題である。特に、合格率が低い科目や理解の積み上げが必要な科目では、復習課題、小テスト、質問対応等により、授業外学修につながる仕組みを検討する必要がある。

設問7～11：学部の学修目標に関する実感

実践型科目やビジネス系科目では比較的高い一方、分析・技術系科目では相対的に低い項目が見られる。学生が学んだ知識や技能を、他科目や実践的な学びと結びつけて理解しやすくするため、授業内での説明や課題設定等に工夫の余地がある。

設問 12：インプットとアウトプットのバランス

多くの科目で比較的高く、授業設計上は知識吸収と発言・実践のバランスが一定程度確保されている。今後も、科目の性質に応じて、知識理解と実践機会の接続を意識することが望まれる。

設問 13：教員・LA からのフィードバック

科目差が見られる。特に理解の積み上げが必要な数理・分析系科目、技術系科目では、学生が早い段階でつまずきを把握し、修正できるようにする支援が重要である。

設問 14～17：社会への関心、関係性、自己理解、他授業への活用

実践型科目では高い傾向がある一方、分析・技術系科目では相対的に低めの項目がある。学修内容が社会や他の授業でどのように活用されるのかを示すことにより、学生の理解や活用実感を高める余地がある。

設問 18：学習環境の整備

全体として比較的高く、教員による学習環境整備は概ね良好である。ただし、一部科目では授業進行、資料、課題量、質問対応等の確認を継続する必要がある。

5. 2024 年度の改善点

2024 年度の点検結果を踏まえると、次年度以降に向けた改善点は以下のとおり整理できる。

1. 数理・分析系科目における基礎的理解の支援

統計・データ分析、仕事で使う数学、データサイエンス入門等について、基礎的理解を補う教材、復習課題、小テスト、質問対応等の充実を検討する。

2. 授業外学修を促す仕組みの検討

授業外学修時間が全体的に低めであるため、各回の内容を定着させるための軽い課題、復習導線、学修ログ等の活用を検討する。

3. フィードバック機会の確保

学生がつまずきを早期に把握できるよう、課題への簡易フィードバック、LA 等による補助、質問しやすい環境づくりを科目特性に応じて検討する。

4. 学修内容の意義や活用場面の説明

分析・技術系科目について、学んだ知識や技能が他の授業や実践的な学びにどのようにつながるのか、学生が理解しやすくなるよう授業内での説明や課題設定等を工夫する。

6. 最終結論

2024年度の対象科目について、全体としては一定の修得状況が確認でき、特にビジネス系科目、実践型科目、PBL関連科目において、学修成果や学生の成長実感が比較的高く示された。一方で、統計・データ分析をはじめとする数理・分析系科目、および一部の技術系科目では、合格率や授業アンケートの一部項目に課題が見られた。

今後は、実践型教育の強みを維持しつつ、数理・分析・技術系科目についても、学生が学修内容の意義や活用場面を理解しやすくなるよう、各科目の特性に応じた授業運営上の工夫を検討していくことが重要である。特に、授業外学修を促す仕組み、基礎的理解を支援する教材・課題、教員・LA等によるフィードバック機会の充実について、令和7年度以降も継続的に確認する必要がある。

参考資料1 2024年度 履修・修得状況

| 科目名 | 履修者数 | 合格者数 | S (90点以上) | A (80点以上) | B (70点以上) | C (60点以上) | 不合格 | 合格率 |
|----------------|------|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----|-------|
| PBL 応用II | 172 | 154 | 52 | 53 | 31 | 18 | 18 | 89.5% |
| テクノロジーとイノベーション | 198 | 129 | 15 | 53 | 32 | 29 | 69 | 65.2% |
| データサイエンス入門 | 302 | 248 | 91 | 73 | 52 | 32 | 54 | 82.1% |
| インターンシップI※ | 184 | 163 | 108 | 29 | 15 | 11 | 21 | 88.6% |
| 統計・データ分析 | 191 | 118 | 15 | 43 | 28 | 32 | 73 | 61.8% |
| IT ビジネス | 218 | 199 | 35 | 86 | 57 | 21 | 19 | 91.3% |
| アプリ開発 | 82 | 61 | 11 | 20 | 22 | 8 | 21 | 74.4% |
| ビジネスリーダーシップ | 220 | 204 | 84 | 61 | 41 | 18 | 16 | 92.7% |
| フィールドワーク | 198 | 156 | 14 | 32 | 55 | 55 | 42 | 78.8% |
| プログラム開発 | 24 | 18 | 3 | 3 | 7 | 5 | 6 | 75.0% |
| デザインシンキング | 208 | 190 | 47 | 52 | 74 | 17 | 18 | 91.3% |
| ビジネスモデル | 182 | 164 | 27 | 52 | 42 | 43 | 18 | 90.1% |
| ロジカルシンキング | 184 | 141 | 15 | 48 | 34 | 44 | 43 | 76.6% |
| 問題解決法 | 180 | 155 | 62 | 50 | 17 | 26 | 25 | 86.1% |
| 仕事で使う数学 | 196 | 160 | 22 | 45 | 41 | 52 | 36 | 81.6% |
| ITリテラシー | 215 | 204 | 154 | 25 | 18 | 7 | 11 | 94.9% |
| プロジェクトマネジメント | 194 | 185 | 77 | 55 | 17 | 36 | 9 | 95.4% |

※インターンシップIは令和7年度より「学外プロジェクト」に名称変更

参考資料2 授業アンケート質問項目

授業アンケートの質問項目は以下のとおりである。なお、設問1は回答者属性、設問20は自由記述であるため、主な定量分析の対象からは除外した。また、設問5、6については今回の点検には適さないため、分析対象からは除外した。

| 設問 | 質問内容 |
|----|-------------------------------------------------------------------------|
| 1 | あなたの学年を選択してください。 |
| 2 | この授業の学修目標について、シラバスや教員の説明で理解できていましたか？ |
| 3 | この授業の出席率を教えてください。 |
| 4 | あなたは、この授業に対して、予習・復習・課題などで1週間あたりどれくらい勉強していましたか？（授業時間を除く） |
| 5 | この授業を通して、どのような力が身につきましたか？以下のA～Fの事項はビジネスデザイン学部の学習目標となっています。それぞれに答えてください。 |
| 6 | A. 次の①～⑤は課題解決に必要な力です。どれが最も身につきましたか？ |
| 7 | B. 「取り組むべき社会の課題を発見し、その解決策を考え出し実行することで、社会に対して持続的に価値を創造する力」は身につきましたか？ |
| 8 | C. 「多様な人々と協働できる高度なコミュニケーション力」は身につきましたか？ |
| 9 | D. 「自ら行動し、関係する人々と協働できるリーダーシップ」は身につきましたか？ |
| 10 | E. 「新たな価値を創造するために必要な感性や美意識などの教養」は身につきましたか？ |
| 11 | F. 「ビジネスを実現するために、現実において粘り強くやり抜く力」は身につきましたか？ |
| 12 | この授業では、インプット（知識吸収）とアウトプット（発言・実践）のバランスがとれていましたか？ |
| 13 | この授業では、教員やLAからのフィードバックが十分でしたか？ |
| 14 | この授業は、社会の出来事や状況などへ関心を持つことにつながりましたか？ |
| 15 | この授業を通じて、人との関係性が広まったり、深まったりしましたか？ |
| 16 | この授業は、自分の考えを整理したり、自分の能力を理解したりするのに役立ちましたか？ |
| 17 | この授業で学んだことが他の授業やゼミで活かされましたか？ |
| 18 | この授業の教員は授業の学習環境を整えるように努めていましたか？ |
| 19 | この授業を通して、社会で新しいビジネスをデザインすることへの関心・意欲が高まりましたか？ |
| 20 | この授業に関して良かった点や改善点など自由にご意見を記入してください。 |

者数を用い、回答率は回答者数を受講者数で除して算出した。集計値が確認できない箇所は「-」で示した。

参考資料 3-1 : 基本情報・Q2~Q10

| 科目名 | 受講者 | 回答者 | 回答率 | Q2 | Q3 | Q4 | Q7 | Q8 | Q9 | Q10 |
|--------------------|-----|-----|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| PBL 応用 II | 172 | 113 | 65.7% | 89.4 | 81.0 | 63.9 | 84.5 | 83.6 | 80.8 | 80.1 |
| テクノロジー とイノベーション | 198 | 109 | 55.1% | 84.9 | 91.5 | 38.3 | 81.4 | 51.4 | 55.7 | 77.8 |
| データサイエ ンス入門 | 302 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 学外プロジェ クト | 184 | 107 | 58% | 86.9 | 92.3 | 47.2 | 84.3 | 82.9 | 82.9 | 81.5 |
| 統計・データ 分析 | 191 | 2 | 1.0% | 87.5 | 87.5 | 62.5 | 62.5 | 50.0 | 37.5 | 37.5 |
| IT ビジネス | 218 | 183 | 83.9% | 87.7 | 81.3 | 55.9 | 84.3 | 79.2 | 80.7 | 79.9 |
| アプリ開発 | 82 | 34 | 41.5% | 83.8 | 94.9 | 49.3 | 55.1 | 56.6 | 49.3 | 73.5 |
| ビジネスリー ダーシップ | 220 | 200 | 90.9% | 93.0 | 92.2 | 56.6 | 82.5 | 91.5 | 90.2 | 81.6 |
| フィールドワ ーク | 198 | 86 | 43.4% | 85.5 | 89.5 | 40.1 | 82.3 | 84.9 | 80.2 | 73.3 |
| プログラム開 発 | 24 | 15 | 62.5% | 86.7 | 75.0 | 53.3 | 76.7 | 80.0 | 78.3 | 86.7 |
| デザインシン キング | 208 | 129 | 62.0% | 82.6 | 84.3 | 42.4 | 76.9 | 77.3 | 76.4 | 79.3 |
| ビジネスモデ ル | 182 | 163 | 89.6% | 89.0 | 85.0 | 42.3 | 87.0 | 84.5 | 78.5 | 84.8 |
| ロジカルシン キング | 184 | 109 | 59.2% | 87.2 | 84.9 | 38.1 | 75.9 | 83.0 | 76.1 | 76.1 |
| 問題解決法 | 180 | 113 | 62.8% | 88.7 | 83.4 | 47.8 | 83.6 | 77.0 | 71.5 | 79.0 |
| 仕事で使う数 学 | 196 | 33 | 16.8% | 87.9 | 96.2 | 44.7 | 56.8 | 36.4 | 36.4 | 64.4 |
| IT リテラシー | 215 | 141 | 65.6% | 89.5 | 94.0 | 55.1 | 79.1 | 77.5 | 74.6 | 80.3 |
| プロジェクト マネジメント | 194 | 84 | 43.3% | 82.1 | 77.1 | 43.2 | 71.4 | 42.6 | 47.3 | 66.4 |

参考資料 3-2 : Q11~Q19

| 科目名 | 回答率 | Q11 | Q12 | Q13 | Q14 | Q15 | Q16 | Q17 | Q18 | Q19 |
|--------------------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| PBL 応用 II | 65.7% | 85.0 | 87.4 | 91.6 | 84.3 | 85.4 | 88.9 | 82.7 | 90.3 | 84.5 |
| テクノロジー とイノベーション | 55.1% | 76.6 | 86.7 | 86.2 | 88.8 | 72.9 | 87.2 | 82.6 | 86.9 | 85.6 |
| データサイエ ンス入門 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 学外プロジェ クト | 58% | 82.9 | 86.7 | 85.5 | 90.2 | 87.4 | 86.0 | 85.5 | 87.1 | 82.7 |
| 統計・データ 分析 | 1.0% | 87.5 | 75.0 | 37.5 | 75.0 | 62.5 | 75.0 | 87.5 | 75.0 | 87.5 |
| IT ビジネス | 83.9% | 82.2 | 87.3 | 87.3 | 85.7 | 79.5 | 84.0 | 82.0 | 87.8 | 82.8 |
| アプリ開発 | 41.5% | 67.6 | 84.6 | 80.1 | 72.1 | 70.6 | 80.9 | 72.1 | 87.5 | 67.6 |
| ビジネスリー ダーシップ | 90.9% | 84.5 | 92.4 | 90.5 | 87.8 | 90.9 | 91.9 | 89.5 | 93.8 | 86.9 |
| フィールドワ ーク | 43.4% | 75.6 | 86.0 | 87.5 | 88.1 | 85.5 | 83.1 | 79.1 | 85.2 | 78.2 |
| プログラム開 発 | 62.5% | 81.7 | 86.7 | 85.0 | 80.0 | 78.3 | 86.7 | 81.7 | 93.3 | 78.3 |
| デザインシン キング | 62.0% | 74.6 | 83.5 | 81.8 | 76.0 | 78.1 | 79.3 | 75.2 | 84.5 | 75.6 |
| ビジネスモデ ル | 89.6% | 85.4 | 89.0 | 87.4 | 89.9 | 85.3 | 87.6 | 87.6 | 88.5 | 88.8 |
| ロジカルシン キング | 59.2% | 71.8 | 90.1 | 86.7 | 83.3 | 82.8 | 89.4 | 85.8 | 89.0 | 74.1 |
| 問題解決法 | 62.8% | 73.2 | 88.5 | 89.4 | 91.2 | 83.0 | 86.7 | 85.4 | 89.6 | 82.7 |
| 仕事で使う数 学 | 16.8% | 58.3 | 80.3 | 53.0 | 71.2 | 54.5 | 78.0 | 70.5 | 81.8 | 55.3 |
| IT リテラシー | 65.6% | 78.7 | 86.9 | 81.9 | 86.3 | 82.4 | 88.5 | 82.4 | 88.8 | 81.6 |
| プロジェクト マネジメント | 43.3% | 66.4 | 81.2 | 79.8 | 82.1 | 66.4 | 83.3 | 73.2 | 83.3 | 70.5 |

※インターンシップ I は令和 7 年度より「学外プロジェクト」に名称変更